

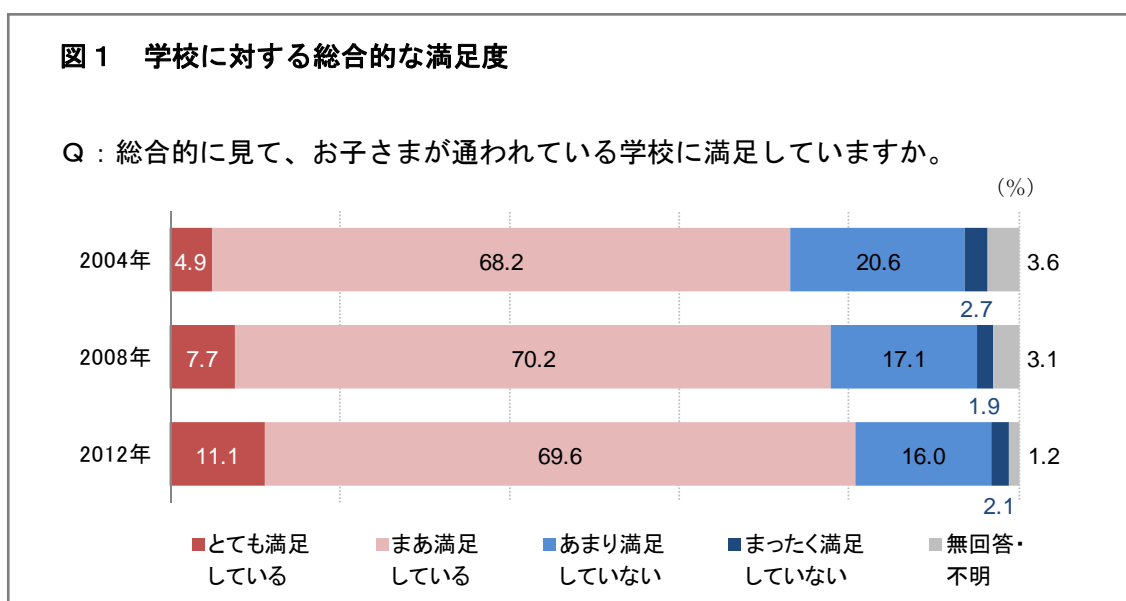
保護者の学校に対する「満足」が増加 ーベネッセ・朝日新聞共同調査の結果から

ベネッセ教育研究開発センター 主任研究員 木村治生

◆学校満足度の高まり

子どもを小中学校に通わせている保護者が、学校に対する満足度を高めている。そう聞いたら、皆さんはどう思うだろうか。いじめに対する対応や体罰の問題など、学校をめぐるっては信頼を損なうような暗い話題が多い。学校に対する評価が良くなっていることを、意外に感じる人も多いかもしれない。

しかし、ベネッセ教育研究開発センターが朝日新聞社と共同で実施した調査では、保護者の学校に対する満足度が高まっていた。「お子さまが通われている学校に満足していますか」という問いに対して、「満足している」（「とても」と「まあ」の合計）と回答した比率は、2004年調査では73.1%だったが、2012年調査では80.7%と7.6ポイント増加した（図1）。じつに8割の保護者が、子どもを通わせている学校に満足しているという結果だ。



◆満足度が高まった理由

それでは、なぜ、保護者は満足度を高めたのだろうか。その問いに対する答えをさぐるため、「総合的な満足」と「個別の取り組みに対する満足」の関連をみたところ、関連の高い上位4項目は、以下のようなものだった。

- ①先生たちの教育熱心さ
- ②教科の学習指導
- ③学ぶ意欲を高めること

④学校の教育方針や指導状況を保護者に伝えること

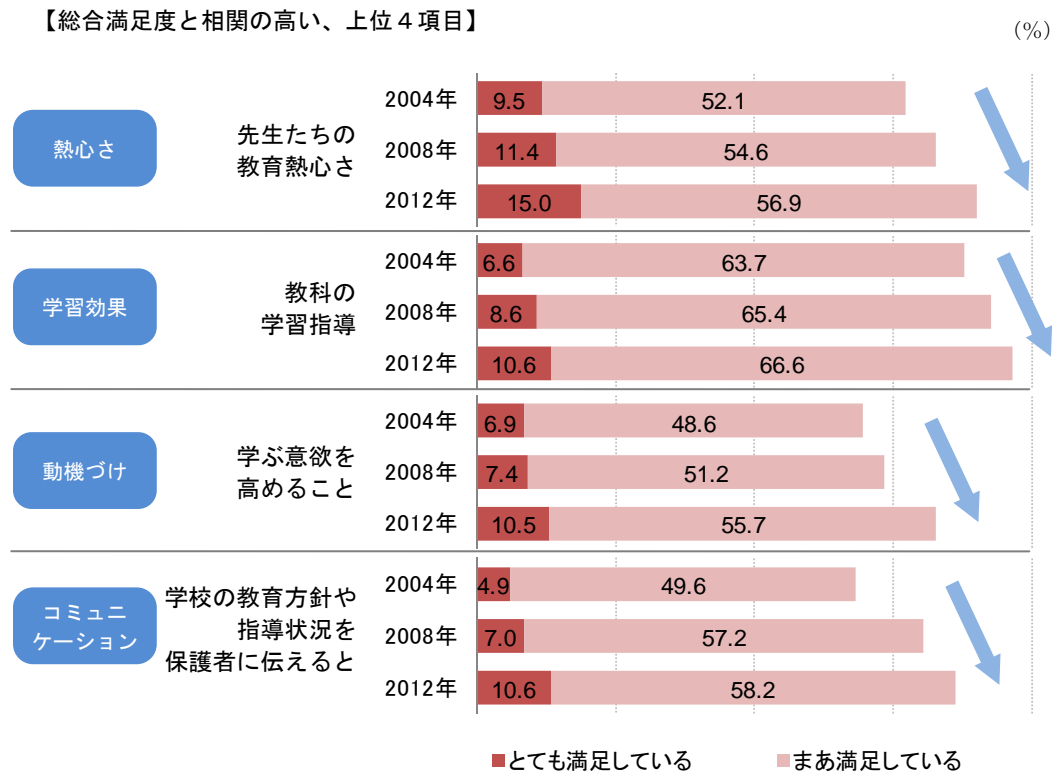
つまり、先生たちの熱心さが伝わり、学習指導で成果を上げ、子どもを動機づけ、そうした取り組みの様子をきちんと保護者に発信することが、学校に対する信頼につながっているということである。しかも、図2に示すように、その4項目はいずれも「満足している」の比率が高まっていた。

このことは、学校や教員がさまざまな努力をしてきた結果だと受け止めたい。この間、学習指導要領の改訂によって子どもたちに指導すべき内容が増えた。それに応じて学校現場に資源が投下されたかと言えば、必ずしもそうではない。個々の学校や教員のがんばりや説明責任を果たす姿勢が、保護者に評価されたのだろう。

図2 学校の個別の取り組みに対する満足度

Q：あなたは学校の取り組みに対して満足していますか。

【総合満足度と関連の高い、上位4項目】



◆今後に向けて

とはいえ、課題もある。一つは、「とても満足している」が少なく、「まあ満足している」が大勢を占める点だ。数値は良くなっているとはいえ、心から高い評価をしている保護者は少ない。多くの保護者の認識は、「そこそこ」の満足である。このことは、現状にとどまらず、さらに高い満足度が得られるような努力や工夫の余地があることを意味する。教育

行政は、そのための資源の投下やサポートを積極的に行うべきだ。

また、保護者の姿勢にも気になる点がある。それは、学校の取り組みに積極的に参画しようとする保護者がそれほど増えていないことである。自分の要望を伝え、それに対する評価をするだけという「消費者としての態度」が強まっているように感じる。保護者の側も学校と積極的にかかわりながら、ともに子どもを育てていくという「協業者としての態度」を強めていくことが大切だろう。